

2025 年 2 月

廃プラスチックの再資源化にむけて

日本製薬団体連合会
会長 岡田 安史

近年、プラスチックごみの増加が環境への影響を深刻化させています。海洋や陸地に捨てられたプラスチックごみが生態系に悪影響を及ぼし、環境汚染の問題が全世界で顕在化しています。医薬品業界もその一端を負う存在として、環境負荷の軽減と資源の有効活用に向けた取り組みが不可欠であるとの観点から、日本製薬団体連合会（日薬連）ではプラスチック製品のリデュース、リユース、リサイクル、リニューアブルに積極的に取り組んでいかなくてはならないと考えます。

日薬連では、2019 年に「2030 年度の廃プラスチック再資源化率を 65%以上にする」を掲げ、会員団体のご協力をお願いしておりましたところ、2022 年度にはこの目標を達成いたしました。また、昨年 6 月には日本経済団体連合会から国内外でプラスチックの使用やリサイクルへの関心の高まりを踏まえ、2040 年度をターゲットとした目標の設定要請がありました。そこで、日薬連は、現在の目標の達成状況や政府のプラスチック資源循環戦略を考慮し、新たに以下の目標を設定いたしました。

目標：『2040 年度の廃プラスチック再資源化率を 85%以上にする』

ただし、目標数値は今後のリサイクル技術の進歩と革新、リサイクル施設の増加、持続可能な原料の開発・導入（プラスチック使用量の削減、バイオマスプラ、モノマテリアル化）、政策の促進（プラ使用制限やリサイクル義務化）も視野に自助努力とともに世の中の動向により適宜見直すこととしています。

皆様の積極的なご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

以上